

「美術の森緑地」が 新しく生まれ変わります!



美術の森緑地とは・・・

- 昭和60年(1985年)、練馬区立美術館の開館とともに区民の憩いの場として整備された公園です
中村橋駅北口から西へ100m(貫井1-36-26)と近く図書館やサンライフ練馬などの施設も隣接しています

美術の森緑地整備計画

- 美術の森緑地内の、陶板舗装部分を天然芝に変更し、さらに緑豊かで、様々な世代の誰もが親しみ楽しめる、憩いの場として整備します。
- 練馬区美術家協会、日大芸術学部の協力を得て、彫刻作品を野外展示します。
練馬区の観光スポットのひとつとして、区内外の多くの方に愛される公園にしていきます。

今後の予定

- 工事期間 平成26年10月～平成27年3月
- 開園 平成27年3月末(開園式典は4月初旬予定)
- ※美術館開館30周年記念特別展も4月開催予定



彫刻作品のイメージ

「路線バス・環八ルート」新規開設と「貫井バス停」設置を要望中!

これまで、バス路線のない貫井地区北西部を中心に利用可能な、路線バス各社による「環八ルート」新規開設と、「貫井バス停」の設置を、継続して要望中です。

住民アンケートの11月実施が決定。ルート開設実現への大きな第一歩を踏み出しました。



自民党

練馬区議会議員 第五十九代議長

関口 かずお

常任委員会 区民生活委員会 委員
特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 副委員長
各種委員会 民生委員推薦会
順天堂大学医学部付属練馬病院運営連絡協議会

ご相談は... 関口かずお 事務所
〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

「高齢者パワー」が 日本を救う!

今年も、敬老の日に合わせて、総務省統計局から、日本の高齢者に関するデータが公表された。

高齢者とは、六十五歳以上の人をいうが、今年の高齢者人口は、三二九六万人、総人口に占める割合は二五・九%と、いずれも、過去最高となった。実に日本人の四人に一人は高齢者、なのである。

平均寿命は男女ともに八十歳を超え、人生は長くなり、身体能力についても、十歳以上若返っているとされる。例えば、今の六十歳代は、昔の五十歳代のイメージというわけだ。

私自身、年齢的には高齢者になる訳だが、おかげさまで、健康で仕事もしているし、同世代の仲間も、まだ現役でいたり、リタイアしていても、地域の活動に積極的に関わったりしている者が多い。そういう意味では、元気な

高齢者こそが、これからの社会の中で、大きな役割を占めるようになるのではないかと、おもつ。

高齢者とされる人たちが、自立して生活可能な健康寿命を延ばすには、就労や社会参加、生きがいが必要だとされ、仕事をしている高齢者の方が、より健康であるという報告もある。千葉県柏市では、産官学が協働し、高齢者が互いに支え合い、地域の中で活躍できるコミュニティづくりの社会実験が行われており、高齢者が、積極的に少子高齢社会を支える試みの効果が、期待されている。

ところで、今年の敬老の日には、地元貫井の祭りや神輿を出した。久しぶりの神輿に血が騒いだ。いくつになっても、やっぱり祭りはいいものだと、おもった。

そんな中、御年九十一歳、人生の大先輩である、現役の

私の後援会長が、元気に参加している姿は、とてもうれしものだった。

少し足が弱っているのに、椅子に座って見ていたのに、そのうち、すっと立ち上がった、しっかりとした足取りで、神輿を担いでいるのだ。周りは怪我をすると心配したが、そんなことはどこ吹く風、本人は大満足だったらしく、とてもいい表情で、若かりし頃の彼をおもわせる一幕であった。

誰もが等しく歳をとる。ある歳にならなければわからないことも、たくさんあるものだと、最近、よく、そうおも

人生五十年といった頃から、人生は倍近い長さになった。長さもさることながら、その長くなった人生を、どう生きるか、よりよく生きるために、社会や地域、施策はどうあるべきなのか。年齢を重ねた議員としての、経験と視点を活かすことが、これからの私にできる、そして、若手議員にはまねのできない、大きな仕事のひとつだと、気持ちを新たにしている。